

設楽発掘通信

No.39
平成30年
8月号

滝瀬遺跡の発掘調査が始まりました

残暑お見舞い申し上げます。

いよいよ、七月から八橋地区の滝瀬遺跡の発掘調査が始まりました。滝瀬遺跡は県道一〇号設楽根羽線の脇にある遺跡で、「滝瀬橋」バス停の少し先です。現在、北の県道と東・南の境川、そして、西の伊那街道に囲まれた一八C区（写真1）で重機による表土掘削を進めています。猛暑真ただ中の発掘調査ですが、清流境川のせせらぎが一服の清涼剤となっております。

一八C区は、遺跡としては南東の端に当たる場所ですが、今年度の発掘調査では縄文時代早期（今から約一万年前から七千年前ころ）や縄文時代後期（今から四千年前ころ）の遺構や遺物の発見が期待されます。表土掘削では、さっそく、黒曜石製の石鏃等も見つかっています。また、平成二十八度に確認した江戸時代以降の伊那街道の続きを探すのも調査の目標の一つです。合わせて、県道北側の一八B区と一八A区の発掘調査の準備も進めています（写真2）。

スタッフ一同、交通安全や熱中症には特に留意して作業を進めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、宜しくお願いします。そして、今後の発掘調査の成果にもぜひご期待ください。

（愛知県埋蔵文化財センター 早野浩一）



写真2 準備が進む滝瀬遺跡 18A区と18B区（西から）



写真1 滝瀬遺跡 18C区の重機による表土掘削（北から）

新郷土館と埋蔵文化財

現在、新しい郷土館開設に向けて展示の資料整理を行なっている奥三河郷土館（写真3・4）に、渡邊俊也館長と石井峻人学芸員を訪ねました。

【聞き手】現在計画されている新郷土館の展示について、教えてください。

【石井】新郷土館では、町の歴史と人々の生活とのつながりが見えるような展示を考えています。（年表ふうの）「歴史の帯」が真ん中にあるのでその周辺に人々の暮らしがどのように営まれてきたかが歴史資料と民俗資料によって示されます。その導入部分として、人々と社会の始まりという位置付けとなる旧石器時代から古墳時代の考古資料を展示する予定です。

【渡邊】これまでの展示は、収蔵展示といつて館にある物全てを展示するという形をとっていましたが、現在計画中の展示構成案は、今よりも少ない資料で各時代の特徴をあらわそうという考え方で展示の構想が立てられています。時間の流れのわかる「歴史の帯」の周囲にはコレクション展示といつて館蔵資料から精選したものを配置してこうと考えています。

【聞き手】発掘調査が進められている遺跡についてはいかがですか？



写真3 現在の奥三河郷土館

【渡邊】愛知県埋蔵文化財センターで整理調査のなされた考古資料の中で、開館に間に合うものがあればそれもコレクション展示に取り入れていこうと、空けて待っている（笑）、という状況です。西地・東地遺跡の縄文土器（写真5）のように具体的な物があれば、それだけ展示に厚みが出てくるでしょうね。ところで僕は津具在住なのですが、ここに通ってくる道沿いに多数の遺跡があるとは思っていません。例えば、笹平遺跡も家や田んぼがあることは知っていたがそこに遺跡があるとはね。そういったことを発掘調査や『設案発掘通信』を通じて町内の人にも目に見えるかたちにしてもらっているのだからありがたい。

石原遺跡の調査

石原遺跡では、連日の酷暑にも負けず、全員で滝のような汗を流しながら、調査区の東半分（一八A区）を掘り上げ、先日ついにラジコンヘリによる空中写真撮影を行いました（写真6）。

一八A区では、前号でも紹介した「土石流に覆われた遺跡」が姿を現しました。土石流に由来する砂礫層を除去して調査面まで掘り下げていったところ、至る所で拳大から人頭大の角礫が密集する状況が確認できました。それらは帯状にまとまった範囲を形成しており、それを手掛かりに自然流路を捉えることができましたのです（〇〇一NR・〇〇二NR・〇一四NR・〇一六NR）。

流路中の礫と礫の間からは、上方から押し流されてきたと考えられる土器や石器などの遺物が見つっています。一八A区北西側の〇一六NR（写真7）からは、磨製石斧が出土しました（写真8）。基部が欠損しているものの、刃部はしっかり残存し、器種まで特定できる数少ない貴重な石器となりました。一八A区では補足調査も終了し、調査は西側の一八B区に移ってまいります。はたしてこちらではどんな遺構や遺物が見つかるのか、ご期待ください。

（安西工業株式会社 鷺坂有吾）



写真7 016NR（南から）



写真8 磨製石斧出土状況（016NR）



写真6 18A区全景（北が上、NRは自然流路を示す記号）

い。ですから、（新郷土館の）開館時点の展示の形があるのだけでも、ここに現在進められている発掘調査の成果を盛り込んでいく可能性もありますね。

自然部門の展示はある程度固定化されていますが、人の営みの歴史という枠で、考古や歴史、民俗の展示については比較的柔軟に対応できるかと思っています。【聞き手】発掘調査でこういうことがわかるといいな、ってありますか？

【石井】時代をどう説明していくかという視点で考えていくと、例えば弥生時代のようにながらるような研究成果が出てくるといいな、と。それぞれの遺跡で各時代のもが見つかりますが、それらの関係性を解明してもらえたら。例えば同じ盆地だけど、名倉には古墳があるが津具にはないのはなぜだろうってね。現代の状況とつなげて考えていけたらと思います。

（聞き手・愛知県埋蔵文化財センター 永井邦仁）



写真4 資料整理中の展示室



写真5 西地・東地遺跡竪穴建物1305SI炉跡出土の縄文土器

滝瀬遺跡の調査

七月二日から滝瀬遺跡の発掘調査が始まりました。今年度は、県道一〇号設楽根羽線北側の斜面地部分の一八A・一八B区と、平成二十八年度の調査区東側に隣接する一八C区を調査していきます。一八C区は境川に面しています。調査は、一八C区↓一八B区西側↓一八A区東側↓同区西側↓一八B区東側の順に行っていく予定です。一八A・B区は排土の置き場を確保するため半分づつ調査していきます。現在は、一八C区の表土掘削を行っています(写真9)。

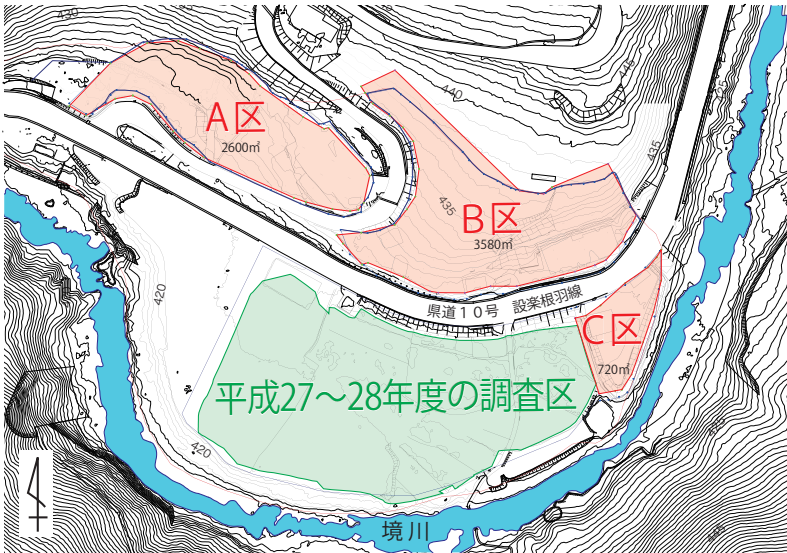
一八C区は、道路の高さまで現代の盛土(もりど)があるため(写真10)、まずそれを重機で取り除いてから表土掘削をおこなっています。その作業が終わると、作業員さんたちで遺構の検出作業や、遺構掘削をおこなっていきます。少量で



写真9 表土掘削風景 (東から)



写真10 18C区調査前 (北西から)



滝瀬遺跡の今年度調査区区分図

すが、表土掘削中に土器片や、黒曜石製の石鏃(せきぞく)(写真11)・剥片(はくへん)など(写真12・13)が出土しています。石鏃は、残念ながら完形ではありませんでしたが、抉り(えぐ)の部分が出土しました。

表土の下層には、平成二十八年度の調査で確認された縄文時代の遺物を含む黒色土層が確認できました。したがって、さらに縄文時代の遺物が見つかる可能性があります。

(安西工業株式会社

高木 祐志)



写真11 石鏃 (黒曜石)



写真12 剥片 (黒曜石)



写真13 石核 (黒曜石)

設楽発掘通信

No.39

平成30年8月号

編集・発行

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24

電話 (0567)674161【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun



印刷・協力

安西工業株式会社